

2020年8月



EV Business Portfolio Manager

Total Segments Valuation Software

Ver. 1.0

株式会社クレジット・プライシング・コーポレーション

EV シリーズ

事業ポートフォリオ
統合管理ソフトウェア

EV Business Portfolio Manager (EV-BPM)

- 事業部門別財務諸表を、売上、営業利益、総資産、業種を入力するだけで自動作成。
- 手間のかかる部門別財務諸表が、短時間に作成でき、業種統計使用により客観性も加わる。
- 事業部門毎の将来シミュレーションを簡単に実施。
- 事業部門の合計と転結の比較によりベストの事業ミックスを検討する。

EV Simulator Pro.

- EVシリーズの基幹ソフトウェア。EV-BPMのエンジン。
- 企業の将来時点における財務諸表を、ユーザーの見込みを加えながら自動で作成。
- 将来の財務諸表から、資金繰り・信用リスク・推定株価などの情報が得られる。

EVシリーズは、将来の財務状況のシミュレーションを行い、企業の財務管理を支援するソフトウェア。EV simulator Pro.(EV-SP)とEV Business Portfolio Manager (EV-BPM)で構成される。

EV-BPMはEV-SPの上で作動している。

EV Business Portfolio Manager (EV-BPM)

EV BPM(入力)

1.事業部門情報

- ・事業部門のセクター(業種)選択
- ・売上・営業利益・総資産入力

EV BPM(出力)

1.部門別実績財務諸表

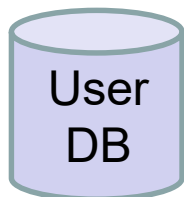
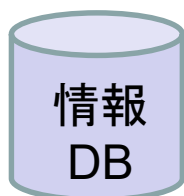
- ・業種/類似企業情報を基に資本、勘定科目残高を割り振り

2.EV SPの将来情報

- ・部門別に将来Key情報(売上、営業利益)を入力
- ・部門別にEV SPの情報(将来PL,BS,CF、将来信用力、将来株価等)取得
- ・複数のシナリオに対応

★EV BPMは複数の事業から成り立っている企業に、簡単な操作で、**事業毎のカンパニー制を擬制**するものである。

データベース



★個々の事業部門を一つの会社として将来性を分析



2.プライベートセクター作成(Option)

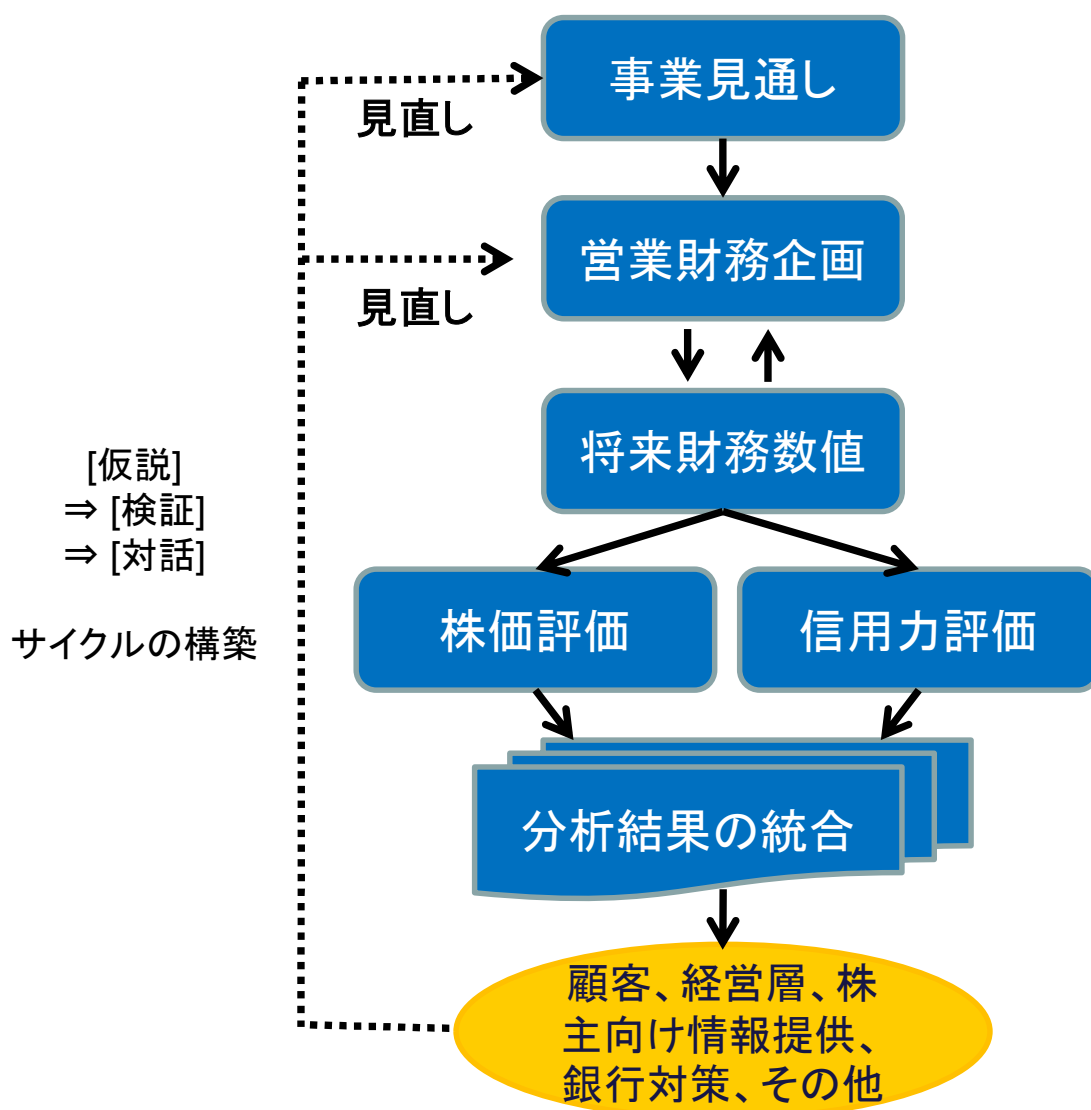
- ・類似した企業をユーザーが選択し、独自のセクター(業種)を作成

3.部門別将来見通し入力

- ・将来(X期)の売上、営業利益予想値を入力

EV-BPMのエンジン *EV Simulator Pro.*

EV Simulator Pro. 単体の使い方



EV-BPMの4つの特長

特長1. 連結PL、BSの実績の部門別切り分け

必要な入力は、部門別の

- ①売上、
- ②営業利益、
- ③総資産、
- ④業種のみ

特長2. 部門毎の将来像を具体的に(将来PL、BSと財務諸比率、企業価値、信用力)生成

- ・ 必要な入力は、将来(X)期の売上のみ
(売掛等の資産、借入等の負債は自動的に連動)
- ・ 将来営業利益の追加、将来2つ目(X+α期)の入力も任意で可能

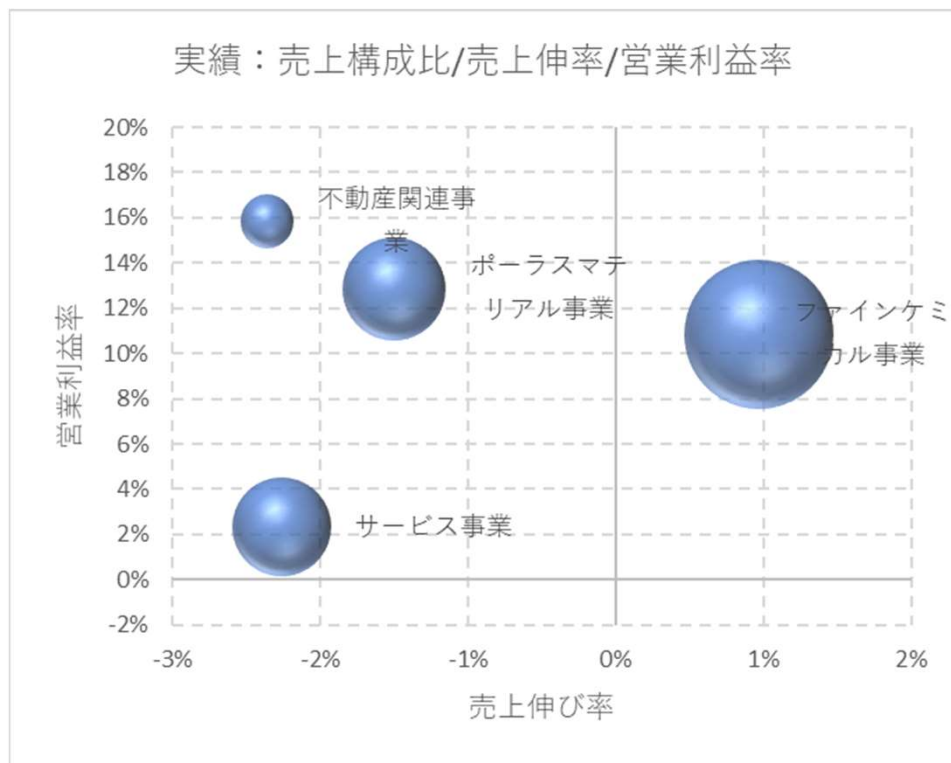
特長3. 部門別将来像のバリエーション(複数シナリオの将来PL、BS)を分析

- ・ 作成した将来シナリオは全てDBに保存されているので、種々の可能性を客観的に比較できる。

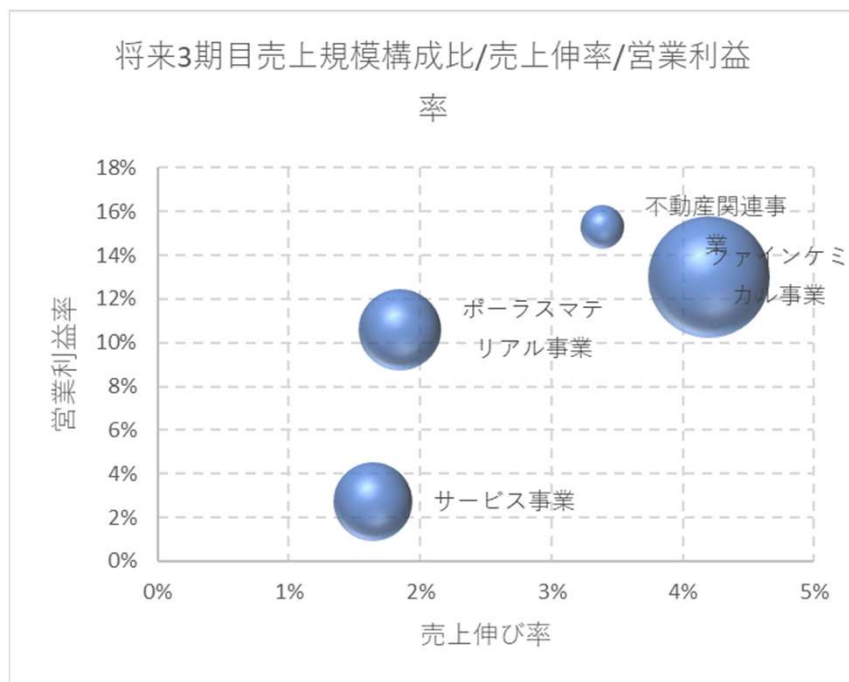
特長4. 事業ポートフォリオマネジメントの情報提供

- ・ EV-BPMは、将来性を含めた資本の配布、部門M&A等、企業の事業ポートフォリオマネジメントに必要な多くの情報を提供する。

アウトプット事例 (X年後の事業ポートフォリオ)

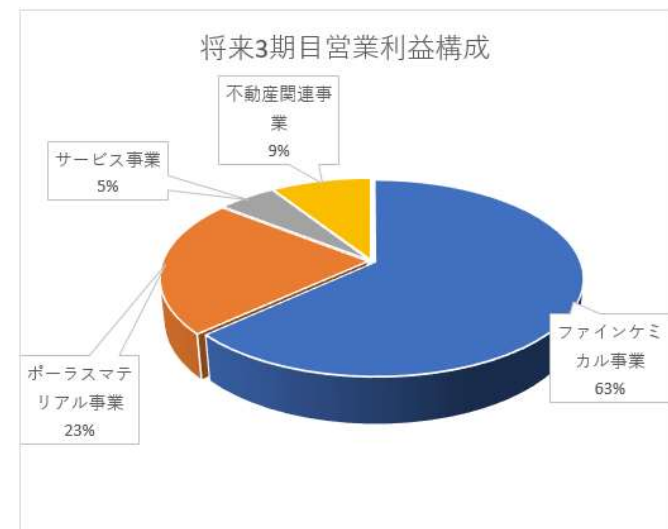
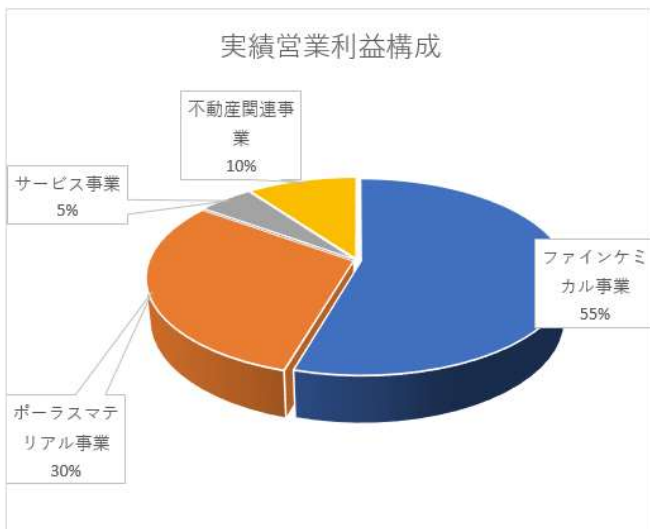
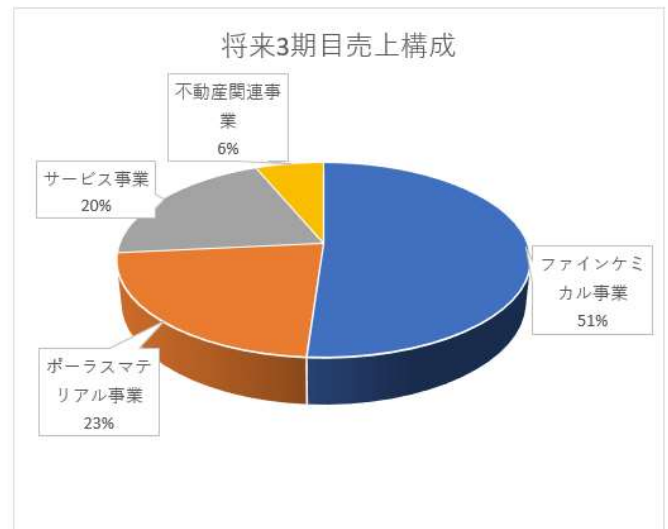
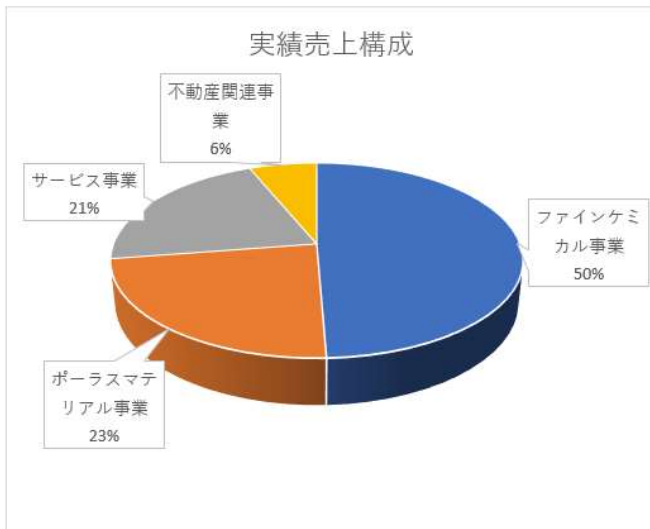


★EV BPMは複数の事業から成り立っている企業に、簡単な操作で、**事業毎のカンパニー制を擬制**するもの

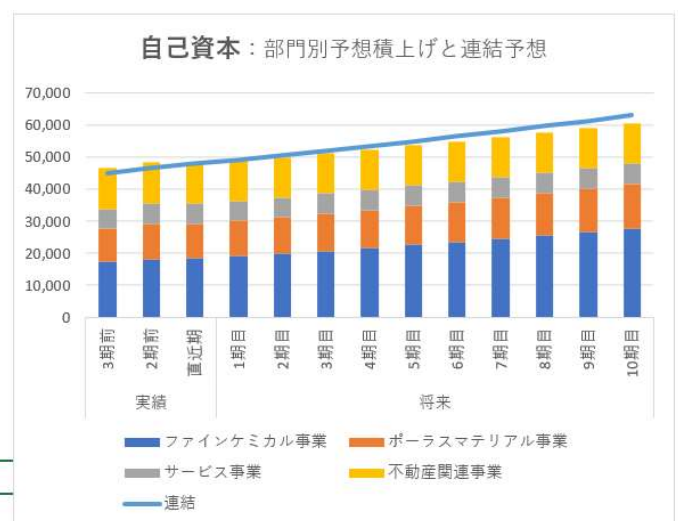
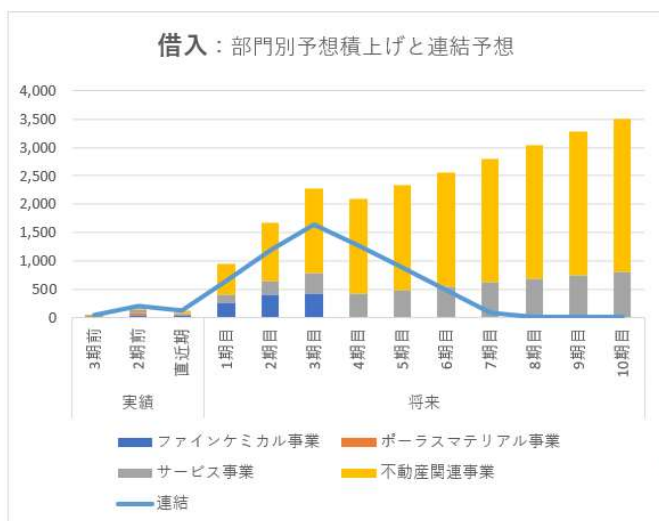
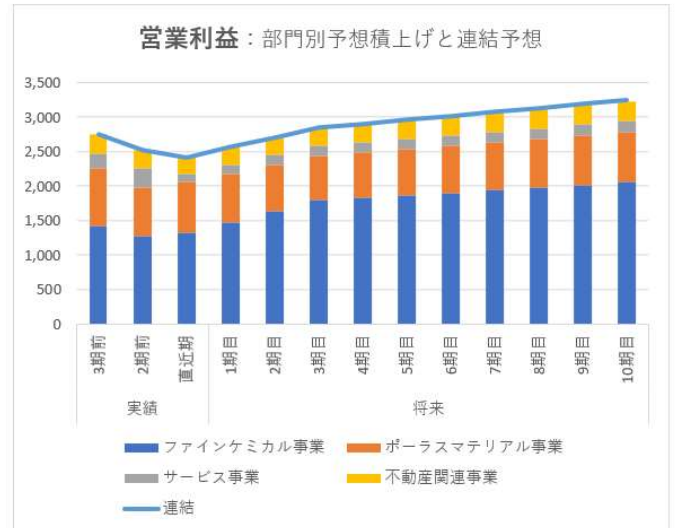
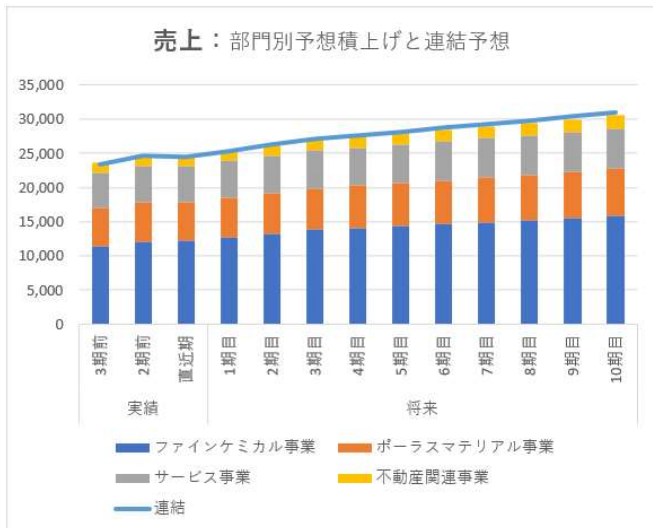


* 比較年度はユーザーが指定可

アウトプット事例(3年後の事業ポートフォリオ)



アウトプット事例(将来主要財務指標推移)

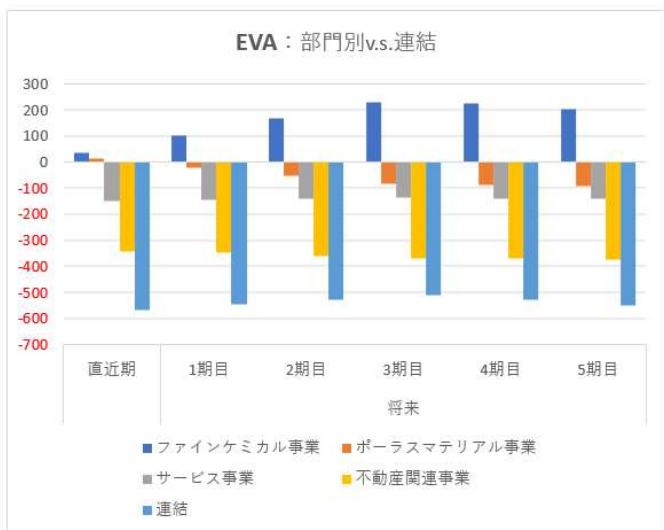
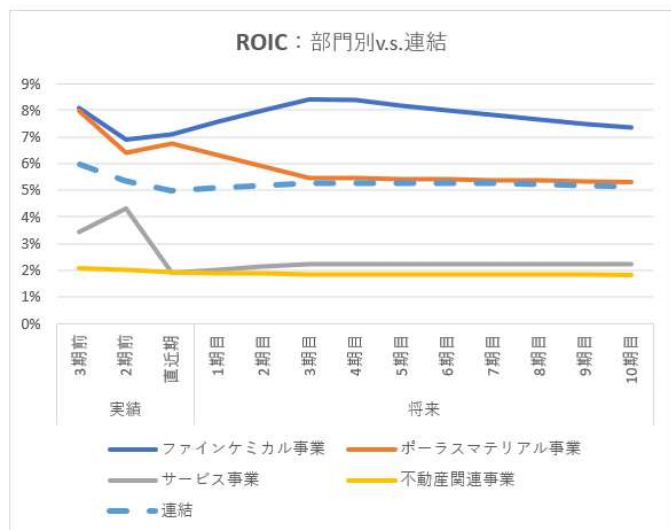
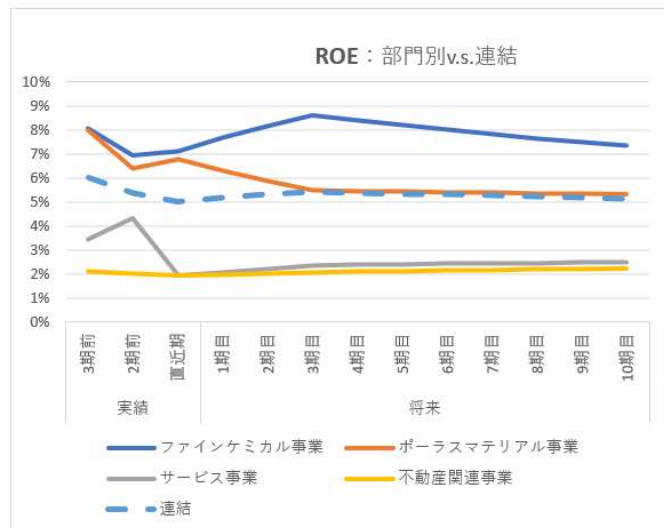
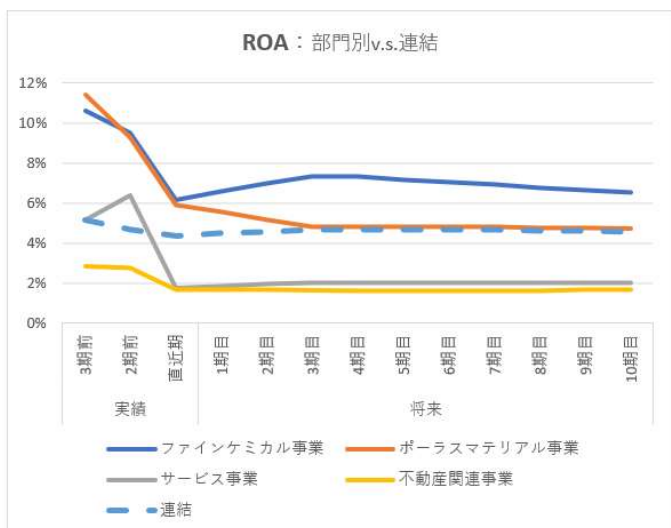


アウトプット事例(将来信用力推移)

格付モデルによる推定格付	実績	将来									
	直近期	1期目	2期目	3期目	4期目	5期目	6期目	7期目	8期目	9期目	10期目
ファインケミカル事業	bbb1	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2	bbb2
ポーラスマテリアル事業	bbb2	bbb2	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3
サービス事業	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1	bb1
不動産関連事業	bbb2	bbb2	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3	bbb3
連結	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1	bbb1

(注) 格付推定モデルは本邦格付機関の格付を推定するためにCPC社が開発、毎年新たなデータを基に更新している。モデル推定格付と実際の格付の相違は概ね1ノッチ以内となっている。

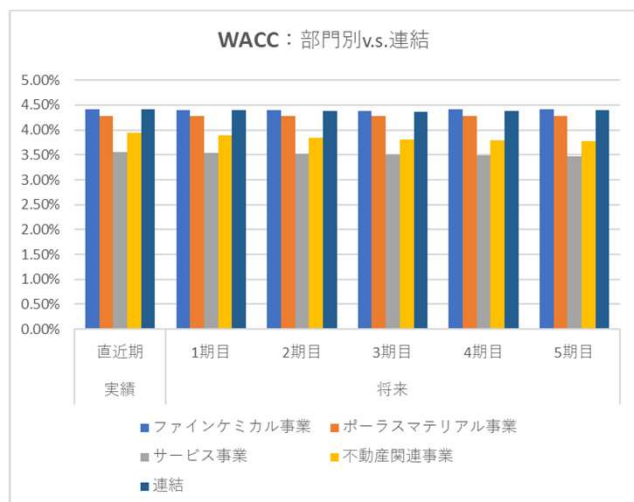
アウトプット事例 (ROE、ROA他推移)



(注) $EVA = NOPAT - CE \times WACC$

NOPAT: 税引後営業利益
 CE: 有利子負債 + 株主資本
 WACC: 加重平均資本コスト

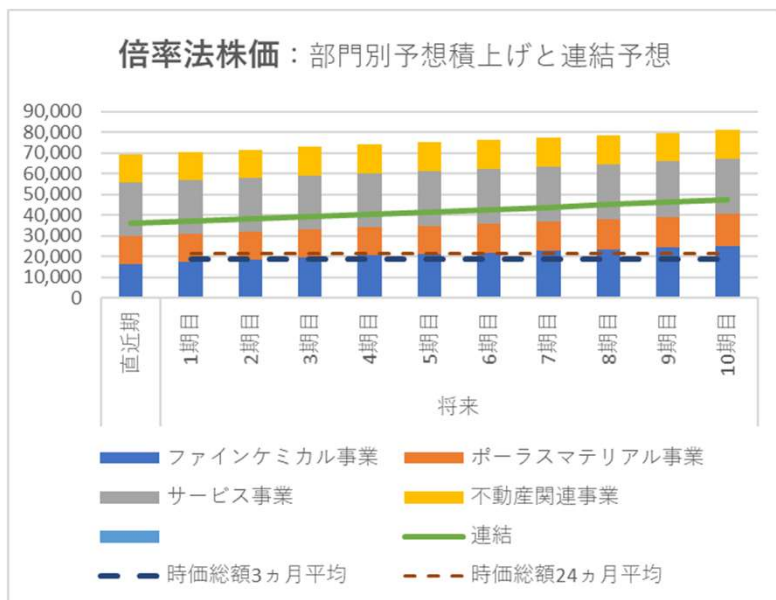
アウトプット事例 (WACC推移)



(注)加重平均資本コスト=有利子負債残高×負債利率×(1-実効税率)+自己資本残高×自己資本要求利回り

(Weighted Average Capital Cost: WACC)

アウトプット事例(将来株価)



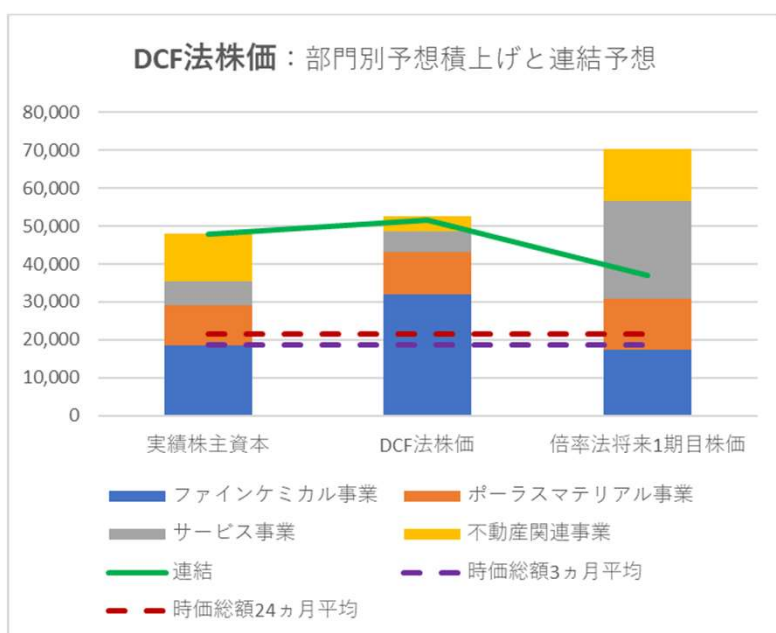
①ここで、注目すべきは、倍率法でもDCF法でも

部門別推定株価の合計 > 実績株価

となっていること。

②この状態は、各部門の事業価値の合計が株価にうまく反映されていない、すなわち、コングロマリットディスカウントの存在を示唆している。

③倍率法とDCF法で水準感にかなり大きな違いがある理由は種々の角度から考察してみる必要がある。



< 動作環境 >

EVシリーズは、以下の要件を満たすPC上で動作します。

メモリ: 2MB以上(推奨4MB以上)

ドライブの空き容量: 1GB以上(ファイルの書き込み権限必要)

OS: Microsoft Windows 10以降(iOSは稼働しません)
32ビット版/64ビット版両環境で動作可能

ソフトウェア: Microsoft Office 2010以降(MS ACCESS必須)
32ビット版/64ビット版両環境で動作可能

ネットワーク接続: データベースの自動更新機能を使う場合、インターネットへの接続が必要(接続がなくても稼働します)

< 開発元 >

株式会社クレジット・プライシング・コーポレーション